早期の販売額3千万達成を目指し、りんどう実績検討会を開催

▲更なるりんどう生産振興を宣言する菊地組合長

あきた白神りんどう生産組合（菊地昇一組合長）は2月5日、りんどう栽培講習会および平成24年度実績検討会を開催しました。

販売3年目となる平成24年度のりんどう販売額は約1、500万で、出荷本数・販売額ともに計画を上回るなど、今後成長が期待できる作物として注目されています。25年度は販売額2千万円突破を目指し、生産者と栽培面積の拡大を図りながら、早期の販売額3千万達成を誓いました。

旬の食材を消費者へ、きみまち杉ちょくんで山うど祭りを開催

▲会員による山うど料理に舌鼓を打つ消費者

地域の特産品である「山うど」の収穫期に合わせ、農産物直売所・きみまち杉ちょくんで2月9日と10日の2日間、恒例行事の『山うど祭り』が開催されました。

消費者へ新鮮な旬の食材を届けようと、店頭には白く太い山うどがずらりと並びました。また特設コーナーでは、家庭で山うどを美味しく食べてもらおうと、山うど料理レシピ・試食品が展示され、来場者はその出来栄えに感心しながら、旬の味覚を堪能していました。

新年度の農業政策を確認する、農業協同班長会議が開催

▲能代地区では約80名の協同班長が参加

平成25年度の農業政策等を各地区協同班長へ周知するため、2月19日と20日に管内3地区で、農業協同班長会議が開催されました。

同会議では、平成25年産米の生産数量目標および水稲作付面積目標が報告されたほか、実質継続となった『戸別所得補償制度』や不作付地の取扱い、平成26年3月末が作成期限となる『人・農地プラン』についても説明が行われ、参加者は新年度農業政策へ理解を深めました。

変化する農業情勢に対し、職員の認識共有を図る

▲新農政について理解を深める職員

平成25年度の農業政策を全職員が理解し、組合員からの意見等へ対応できるよう、JAは新農業政策研修会を開催しました。

はじめに営農経済事業本部の坂本常務が「平成25年産米の生産調整や経営所得安定対策について理解を深め、業務に活かしてほしい。」と挨拶しました。また、平成25年度では、22年度に改善計画した不作付地の作付開始年度となるため、詳細については各営農センターへご相談下さい。

今月のあなたの運勢（2013年4月）

牡羊座（3・21～4・19）　興味を引かれることにチャレンジするとスムーズに進展しそう。積極的に行動してみて。良縁にも恵まれます